



第10号

1995(平成7)年3月20日 発行
行所 東京電機大学高等学校同窓会
東京都小金井市梶野町4-8-1
電話 0422(37)6441(代)

兵庫県南部阪神大震災が起きて 災害は忘れた頃に

戦後50年目に起きた大災害
1月17日の未明に発生した地
震は、大都市における直下型地震
でした。そのため震源地の淡路島
は壊滅的な被害を受けたので
ある。

情報ラインの破壊と都市機能

しかし、情報の中心である電話、交通、鉄道は京都においてもすべて不通、ただ道路には救援に駆け付けるパトカー、救急車、消防車がサイレンを鳴らし走り回る

An aerial black and white photograph capturing a catastrophic scene of a highway bridge's collapse. A white double-decker bus is precariously balanced on the twisted metal remains of the bridge's support structure, which has given way into a deep, rocky ravine. The bridge deck itself is completely severed, with one half still attached to the roadway above and the other hanging precariously over the void. Debris from the collapsed bridge is scattered across the dark ground below. In the background, a multi-lane highway continues without the bridge, with several cars visible on the road. The perspective is from a high vantage point, looking down at the accident site.

高架縫合部が脱落した阪神高速道路、危機一髪で宙吊りは熊で転落を免れた観光バス。(1月18日西宮)

「朋友」新聞の發行に當たつて

東京電機大学高等学校同窓会会員

大塚忠克

少益甚闇から、大變なわざでもないとい
り被害調査に同行して欲しいとの
依頼を受けたのは、明けて18日
朝、TVでは火災の状況を映して
いるところでした。早速、緊急車
両に同乗して神戸に向かうが、真
速道路は落ち、至る所で道路は半
断され、火災の発生と車の渋滞で現
地到着は遅れ、神戸市役所に到
着したのは7時間後、途中でみづ
破壊されたビル、瓦礫の山とな

始されました。自然に対して絶対安全は有り得ない。一年前、アメリカ・ロスジエ尔斯で地震があった。そして一年後、阪神大震災。ロス地のとき、高速道路、住宅、情報の被害に日本の著名人、専門家学者、役人の方達は、日本にM5の地震がきても日本はビクとしないし、あの様な被害は絶対に得ない、絶対大丈夫だと連発

を計画したりと、後片付けや整理に支障をきたすことが度々である。この様な軽率なことが行われている。この様な人達は現地の被災地住民の方々の気持ちをどのように思っているのだろうか。

自転車にて職場に出勤、事務所内は目を覆うばかりの散乱状態でした。すぐに各関係者、家族に連絡をとろうと電話を掛けるが不通、何回か連続的に電話しやっと家族に連絡が取れるがその後は不通となり、近畿の情報はTV、ラジオのみとなってしまいました。

た住宅、その住宅で家族を探していました。人々、火を噴くマンション。同年代で、されている年配の方は「まるで戦争の時の空襲の後のように」とは、いたいのが印象的でした。

日本でも同じ事が起こった。自然を征服するという驕った考え方ではなく、自然とお付き合いする事が大切ではなかろうか。

同窓生の皆様、教職員の皆様
は、日頃より同窓会活動に深い
理解とご支援、ご協力を賜りま
して厚くお礼申し上げます。
さて、皆様よりご協力いただき
毎年発行してまいりました同窓
機関誌「朋友」を、今年度から
聞として発行することとなりま
た。昨年まで毎年、向芝先生を
め同窓会編集委員の皆様の「ご協

母校が、今後より一層の発展を
るためにには、卒業生である同窓
の強力は益々重要なものとなっ
くると思われます。同窓生が気
に母校を訪ねられ、先生方と親
く話が出来るようになりますが
切ではないかと思います。同窓
はこの様な場、機会を作ること
求められているものと考えます
そのためには、同窓会活動最大

の「朋友」編集委員の皆様のご協力によりましてこの新聞が発刊されるようになりました。

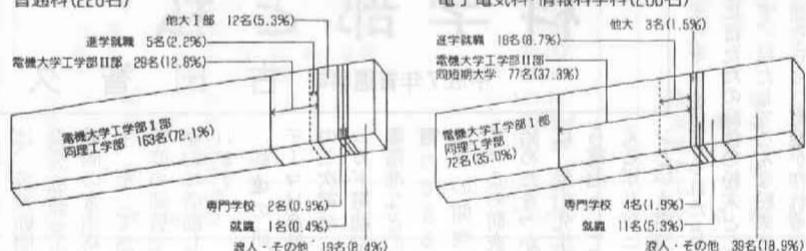
この「朋友」新聞が同志会の拠点として、母校と同窓生、在校生との新たな交流の場となることを信じています。そして、同窓会活動のより活発となるよう皆様の積極的な投稿をご期待申し上げます。

高等学校学科別卒業者数

学校	学科	記号	卒業年	卒業者数
電機第一工科 機械第一工科 電機工業学校 第一工業学校	電気科	E	S18~24	380
	機械科	M	S24	26
	電気科	E	S17~24	584
	併設中学	J	S23~24	520
電機第二工科 機械第二工科 電機工業学校 第二工業学校	電気科	E	S22~24	400
	機械科	M	S22~24	120
	機械科	M	S23	8
	併設中学	J	S23	243
東京電機大学高等学校 (電機学園高等学校)	普通科	L	S27~63,H1~6	8,327
	電気科	電力課程	E S25~40	1,696
		電気機器課程	M S25~40	975
		電気通信課程	C S25~40	1,433
		電気計測課程	I S29~40	591
	電気科	E	S41~63,H1~4	2,969
	電子科	D	S41~63,H1~4	2,946
	機械科	M	S41~62	1,409
	工業計測科	I	S41~44	229
	電子機械科	M	S63,H1~4	263
	電子電気科	D	H5~6	254
	情報科学科	C	H5~6	173
	電気科	E	S24	94
定時制	電気科	電力課程	E S25~41	1,128
		電気機器課程	M S26~40	641
		電気通信課程	C S26~41	859
	電気科	E	S42~46	328
	機械科	M	S24	10
	電子科	D	S42~46	189

平成6年3月の卒業生進路

平成6年3月
普通科(226名)



ましたか。いかがでしたか。
か。なるべく多くの人へ配布と
う目的で、今までの冊子をこの
うな形式としました。内容も、一
子のときと同じとは行きませ

繩集後記

そんななか江戸城は、明治維新以降、「皇居」となったおかげでコンクリート化を免れ、現在も江戸城としての姿を残している。

詰し下さい。また、今後もこのような企画で実施して行きたいと思いますので、ご意見、ご要望がありましたら是非、お願ひ致します。

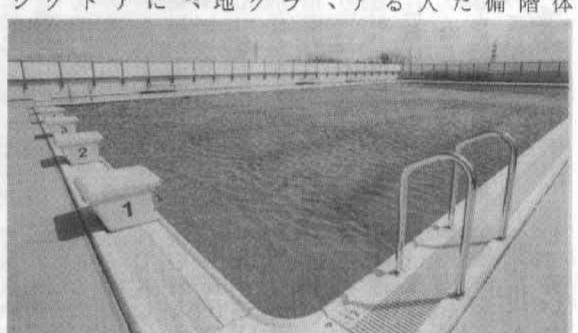
新しい校訓「Live as a man」のもと 個性豊かな人材育成を

高等学校の現況報告



校庭側から見た校舎の全景

充実した体育施設の一つ屋上プール



充実した体育施設の一つ屋上プール



時代の先端を行くコンピュータ窓